



- ▣ 京町家で育んだ八十八年の暮らし 杉本千代子
- ▣ 江戸琳派の継承(第1回) 酒井抱美
- ▣ 「ももたろう」三つの団子の意味は何? 浜島代志子
- ▣ 『はらぺこあおむし』原点は何?(第2回) 大久保俊輝
- ▣ 教育視察(台湾編)(第1回) 長田尚夫
- ▣ 学校教育アドバイザーとしての心構え 錢廣修
- ▣ 教育者としての学び「子どもから学んだ教職1年目」 川原容一
- ▣ 田んぼでの体験活動で学校支援 小谷野守男
- ▣ めざせリーダー! 鍵山智子
- ▣ 学校のちょっといい話⑩

### 京町家で育んだ八十八年の暮らし

公益財団法人 奈良屋記念杉本家保存会 代表理事 杉本 千代子

私は、昭和十年（一九三五）十一月四日、京都伏見の里の造り酒屋齊藤家十代目の五女として生まれました。昭和十六年に勃発した第二次世界大戦、そして四年後の昭和二十年の敗戦を経験いたしました。

兄姉たちも、学徒動員で工場に出向き武器をつくり、食糧難に苦しみ、空襲警報のサイレンで防空壕に入ったりしながらも、直接戦火を浴ることもなく守られておりました。敗戦後十三年経った昭和三十三年（一九五八）杉本家九代目を継ぐ主人秀太郎と結婚。三人の娘に恵まれました。

京都杉本家は江戸時代後期、三重県松坂（粥見村）の田舎から村の僧侶に手をひかれて京にのぼり、呉服商の丁稚（でっち）として奉公し、寛保三年（一七四三）小さな店を構えた初代から八代目の舅まで家業の

「奈良屋」を大切に守り続けました。特に一代目は、千葉県佐原にも店を構えましたが、父の許しを得た主人は学者（フランス文学）の道を歩みながら、杉本家の精神と建物を守

るため、平成三年（一九九二）に法人を設立し、財団運営と執筆活動を続け、平成二十七年（二〇一五）八十四歳の天寿を全ういたしました。舅も、平成元年（一九八九）天寿を全うし、二四〇年余り続いた家業も終えました。

杉本家には初代から今日まで商売にも生活にも仏教（真宗）即ち御釈迦様の御教えが流れています。それゆえ、家庭の中に争い事がなく、娘たちはのびのびと育ちました。代々の主を懸命に支えてくれた店の人々を大きな心で包みながら日常に励んだ舅、姑、その幸せの中で育った主人、私の家族は豊かな心に育んでいただきました。特に姑は働き者で、掃除、食事、庭の植物の手入れに精を出し、朝一番に仏壇に手を合せ、黙つて後姿で教えを伝える方でした。庭に一本の古い柿の木があります。家に起るよろこび、悲しみを静かに受止め、行く末を祈つてくれる大切な心のシンボルの樹。

今日、法人で守り継いでいる町家ながら、娘たちと御釈迦様の御教えを生活の糧とし、見学者の皆様に仏さまの願いである「幸せ」をお伝えしたいと精進しております。



# 江戸琳派の継承（第一回）

NPO法人江戸琳派継承会 理事長 酒井 抱美

## 一、江戸琳派とは

私が講演をする中で「琳派」と江戸琳派はどう違うのですか」という質問をよく受けます。

そもそも琳派とは桃山時代後期に本阿弥光悦、俵屋宗達が

天井や襖絵などに金箔を多く用い絢爛豪華、煌<sup>きらび</sup>やかな美術様式として拡まっていきました。光悦・宗達と尾形光琳とは約一〇〇年の時の隔たりがあり、

何の面識もなく知らない者同士でしたが、光琳はその作品や人物像に憧れ傾倒し二人の流れを継承しました。これを「私淑」と言います。「私淑」とは



酒井 抱美 氏

始めた流派で、当時は琳派という言葉はなく光悦流、宗達流などと呼ばれていました。琳派と呼ばれるようになつたのは近代になつてからです。それはこの二人から約一〇〇年後に現れた尾形光琳の影響によるものでした。京都琳派は、初め、武家の絵画として城の天井や襖絵などに金箔を多く用い絢爛豪華、煌<sup>きらび</sup>やかな美術様式として拡まっていきました。光悦・宗達と尾形光琳とは約一〇〇年の時の隔たりがあり、

実際、光琳は宗達が描いた『風神雷神図屏風』をほぼ原寸大に模写し、現在作品は、重要文化財として東京国立博物館に所蔵されています（俵屋宗

元々は孟子の言葉で、すでに故人であるとか、遠方にあつて面識がないなどの理由により直接的に教えを受けないもの、密かにその人を師と考へて尊敬し基節として学ぶことをいう言葉です（従来の師承とは全く違った形です）。ですから光琳も強いインパクトをもつて、自身の住居兼アトリエでもある「雨華庵」にて光琳百回忌を開催するなど光琳への追慕、私淑は生涯衰えることはありませんでした。そして、光悦・宗達・光琳など先人が築いてきた京都発祥の琳派を東京・

江戸にて豪華な金箔中心の絵画から銀の持つ独特の静寂、「侘び」「寂び」「粹」などメンタル部分を表現し、江戸で確立されたものが江戸琳派と呼ばれ、

達の『風神雷神図屏風』は国宝として京都建仁寺所蔵）。そしてさらに、一〇〇年後に私

の先祖・酒井抱一が尾形光琳に私淑し、光琳の画業を徹底的に研究し続け『光琳百図』なる縮小版図録を出版したり、

自身の住居兼アトリエでもある「雨華庵」にて光琳百回忌を開催するなど光琳への追慕、私淑は生涯衰えることはありませんでした。そして、光悦・宗達・光琳など先人が築いてきた京都発祥の琳派を東京・

れ、多くの門人を輩出してきました。抱一の最大の手柄は、江戸琳派と呼ばれる絵画様式を大成させた事はもちろんでですが、私は尾形光琳という画家を発見し、私淑し、光琳の全てを引出し、世界的に日本の琳派という美術を知らしめ、確立した事だと思います。この抱一の行動がなければ、今の光琳も琳派の世界も違つたものになつていたと思われます。まずは、興味を持ち好きになる。そして形を作り上げる。伝統文化の継承に取り組むにはこの気持ちが大切だと感じます。

## 二、江戸琳派の祖・酒井抱一

酒井抱一は、姫路藩主・酒井雅楽頭家の次男として東京神田小川町の姫路藩別邸で生れました。兄が姫路藩主となり、



酒井抱一のお墓

その後兄に男児が生まれ家督問題から外れた抱一は、やがて三十七歳の時に出家し『等覚院文詮暉真』という法名を持つ僧侶となりました。抱一の出家の理由は、不明という説明がほとんどですが、私はやはり抱一の約一〇〇年前の

鈴木正三は、四十二歳の時に出家し僧侶となりました。ただ酒井家と逆で、鈴木家は正三が長男ですが家督を継がず、弟の重盛が継承しました。正三は民衆に根差した教えを説き、全国に布教活動を行いました。同じ徳川家臣の、正三の生き方に同調し、抱一も出家したと考えます。元々抱一は、武家の生活に馴染めなかつたのでしょう。立場を捨て出家し、庶民の生活に憧れ、文芸の道を貫いた人生は正に鈴木正三と重なり合います。

現在、酒井抱一の墓は東京都の史跡として、築地本願寺敷地内に祀られています。

## 三、継承画家との出会い

徳川の家臣である鈴木正三なる人物の影響によるものと考えます。二〇一五年秋、私はひとりの画家と出会いました。知人より、「日本橋のギャラリーで琳派の作品展をやつているから是非見ては」と連絡がありました。それでもいろいろな画家の方たちとの接点はありました。括りの中では私の感性とは違いました。その時も軽い気持ちで行つたのですが、ギャラリーに入つた途端、強い衝撃を受けました。宗達の『風神雷神図』を模写した屏風、光琳・抱一など琳派の象徴として描かれる『燕子花図』など、色彩がどうこうではなく、私が生きてきた酒井家の「匂い」を感じたのです。その画家は、伊藤哲という日本画家でした。



「降臨せし風雷神のために」(二曲一双 各164×182cm)

伊藤氏は、私と出会う以前から光琳・抱一に私淑し、事あるごとに築地本願寺の抱一の墓を参拝していました。その事もあり、実質五代目・抱祝(私の祖父)で途切れた酒井家江戸琳派の画業を継いでもらうには、伊藤氏しかいないと思い、翌年、酒井家雅号『雨華庵』の使用を許可し、一人で江戸琳派の普及、発展のため邁進する事となりました。後に描き上げた光琳・抱一へのオマージュ作品でもある『降臨せし風雷神のために』は光琳の『風神雷神図屏風』と抱一の『夏秋草図屏風』を正面から合わせ描いた作品で、この画期的な作品は関係各所で高く評価され、雨華庵・伊藤哲の名を高めました。

#### 四、今後目指すこと

一二〇二八年に私の先祖・酒

井抱一の没後二〇〇年という大きな節目を迎えます。今計画しているのは、抱一の銅像を建てる事です。場所としては、お墓のある築地本願寺とか、江戸時代末に火事で焼失した抱一の住居兼アトリエ『雨華庵』があつた台東区根岸辺りとか、候補はいくつもあります。まだ時間ががあるので慎重に進めて参ります。江戸琳派は、国内はもとより海外でもファンが多いので、この場所が江戸琳派発祥の場と広く発信していきたいと考えています。

#### おわりに

いくら伝統と言つても何もしなければどんどん忘れ去られていってしまいます。今後も関係者と連携し、講演会、展示、展覧会などを開催し、江戸琳派の普及・発展に努め

# 『ももたろう』三つの団子の意味は何? (第二回) 『はらぺこあおむし』原点は何? (第二回)



写真① 山本志津氏(筆者の娘) 息女

ご縁があつて麗澤幼稚園で対話式絵本読み語り（写真①）と幼稚園の先生方に講演（写真②③）をさせていただきました。長い間、待ち望んでいたことが実現できてほんとうにうれしいことでした。「静かに聞かなくていいのよ。思つたことをどんどん言つてね。やつちやいけないことは・・・無いね」。子どもたちはきょとんとした顔でしたが、すぐに絵本の中に入つてきてくれました。

えほん教育協会会長 劇団天童代表 沖縄国際大学 社会人講師 浜島 代志子

枚ずつ拡大コピーして黒いボードに貼り付け、子どもたちの反応に合わせて自由に動きながら語ります。語り手は娘の山本志津。自分が描いた絵なので自ずと熱が入ります。

三つのきびだんごをいぬ、さる、キジに半分ずつ分けて食べる場面になると、子どもたちから声があがります。「え、半分こするの?」「どうして?」「一個じゃないの」「ケチ」「聞いたことないよ」。子どもたちの疑問に答えながら物語を進めなければなりません。「ケチだと思うのね。どうして半分こするのかな?」と語りかけます。あれやこれやの言葉が返ります。

桃太郎といぬは力の団子を半分ずつ食べて、桃太郎は犬の行動力をもらい、いぬは団子から神様の力をもらう。知恵の団子を半分ずつ食べて、桃太郎はさるの知恵をもらい、さるは神様の力をもらう。心の団子を半分ずつ食べた桃太郎はキジから想像力をもらい、キジは神様の力をもらう。三つのきびだんごは、真善美を表していると思いますが、子どもたちにわかりやすくするために知恵の団子、力の団子、心の団子と言いました。

対話していくうちに「わかった！」「団子の力、すごいね」「団子、ぼくにもちようだい」「がんばれ」など、子どもたちは自由に言葉を発します。この時の納得した顔、得意げな顔をご覧いただきたいと思います。おはなしの中で子どもたちも行動力（力の団子）、知恵（知恵の団子）、想像力（心の団子）を身につけたのです。力がみなぎった子どもたちは、鬼ヶ島の鬼をやつつける場面では、立ち上がりこぶしを振り上げ、大声を出し、鬼をやつつけ、「えいえいおー！」と勝どきの声をあげます。誰もが瞳は輝き、頬はつるつると光り、自信に満ちたいい顔をしています。子どもたちと語り手は完全に一つになりました。

物語は続きます。鬼をやつけて語りかけます。「その後、桃太郎はどうなつたかな？」。おじいさん、おばあさん、桃太郎とお嫁さん、子どもが一人。親子三代を描いています。この物語は日本人が願う男の子の成長物語だと位置付けています。桃は、古事記のイザナキ、



写真② 麗澤幼稚園の先生方と交流する筆者

イザナミの黄泉の国での醜い争いに登場しますね。イザナミが放つ悪鬼を追い払いイザナキを救つたのが三個の桃の実でした。桃の実は神の靈力があるということになります。桃太郎は神通力のある桃から生まれたということをきちんと踏まえて、子どもたちにわりやすく日本の心の伝統を伝えたいと思うのです。自国の神話、民話を幼児時代から小学校六年までにしつかりて語りかけます。『はらぺこあおむし』（作・エリック・カール・偕成社）も嬉しい反応でした。大型絵本を私と山本と二人掛けで語りました。対話式絵本読み語りは、子どもたちの道徳心、勇気、やさしい気持ち、耐えることなどを教えてくれます。お説教無しで心情に働きかけるので、すつ

と子どもの芯に入っていくのです。

今、教育現場はたいへんな

ことを知っています。頑張っておられる先生方を全力で応援させてくださいませんか。

桃太郎の話はまだまだあるのですが、機会を見つけて語らせていただきたいと思います。

とにかく、子どもたちの反応はすごかつた。長いコロナ時代が邪魔したかと案じていましたが、麗澤の子どもたちが大丈夫と教えてくれました。

三歳児クラスでの『はらぺ

こあおむし』（作・エリック・カール・偕成社）も嬉しい反応でした。大型絵本を私と山本と二人掛けで語りました。対話式絵本読み語りは、子どもたちの道徳心、勇気、やさしい気持ち、耐えることなどを教えてくれます。お説教無しで心情に働きかけるので、すつ

と子どもの芯に入していくのです。今はまだあるのですが、機会を見つけて語らせていただきたいと思います。最初のうちは子どもたちと一緒に演に参加してくださいました。



写真③ 麗澤幼稚園の先生方の演示を見守る筆者

つづけて語るとカールさんは、  
何を言っているのかと尋ねる  
ので英語で答えました。すると、  
私と一緒に歌い出したのです。  
私は日本語、彼は英語なのに  
リズムが合って終わりまで語つ  
たのです。その後に、松戸市  
民劇場でカールさんのトーク  
講演や食事の時に話した大事  
なことをお伝えします。

「子どもたちを楽しま  
せるストーリーテリング  
のテクニックはワンドラフ  
ル！ 日本のストーリー  
テリングは子どもたちが  
話すのを禁じていると聞  
いたが、おはなしキャラ  
バンはまったく違う。こ  
のスタイルで子どもたち  
を楽しませてほしい。お  
はなしキャラバンを続け  
て」。エリック・カール  
さんお墨付きの対話式で  
『はらぺこあおむし』を  
読み語りしました。

一緒に体育館でご覧になつてい  
ましたが、カール作品『ね、  
ぼくのともだちになつて』（作・  
エリック・カール・偕成社）  
の読み語りになつてから、ススつ  
と舞台に上がってきて私と一  
緒になつて声を出し始めました。  
♪「だあれかいないかな、  
お友だちはいなかな」と節

をつけて語るとカールさんは、  
何を言っているのかと尋ねる  
ので英語で答えました。すると、  
私と一緒に歌い出したのです。  
私は日本語、彼は英語なのに  
リズムが合って終わりまで語つ  
たのです。その後に、松戸市  
民劇場でカールさんのトーク  
講演や食事の時に話した大事  
なことをお伝えします。

「子どもたちを楽しま  
せるストーリーテリング  
のテクニックはワンドラフ  
ル！ 日本のストーリー  
テリングは子どもたちが  
話すのを禁じていると聞  
いたが、おはなしキャラ  
バンはまったく違う。こ  
のスタイルで子どもたち  
を楽しませてほしい。お  
はなしキャラバンを続け  
て」。エリック・カール  
さんお墨付きの対話式で  
『はらぺこあおむし』を  
読み語りしました。



写真④ 「ももたろ」の裏表紙

『はらぺこあおむし』のメッ  
セージは何でしようか。あお  
むしを主人公にしてカールさ  
んが子どもたちに伝えたいこ  
とは何でしようか。いっぱい  
食べてきれいな蝶々になつた、  
ということでしょうか。あお  
むし君を通して言いたいこと  
があるのです。カールさんか  
ら聞いたことをお話しします。

ドイツからアメリカに戻つ  
てきたカール一家は貧しかった。  
子どものエリックは画家を夢  
見ていたが、絵の具も画用紙  
も買えない。「ローセキで道路  
に絵を描きなさい。今はみに  
くいアヒルの子だが、必ず白  
鳥になるとおじさんが励まし  
てくれた。いつか白鳥になる  
と信じて描き続けたよ」「『は  
らぺこあおむし』は『みにく  
いアヒルの子』（えほん教育協  
会の絵本シリーズ③）だよ」「ア  
ンデルセンですね」「そうだ」。  
このやりとりが市民劇場の舞  
台上でのことでした。「君たち  
は必ず白鳥になるよ。いつも  
いつでも応援しているよ」とカ  
ールさんの思いも重ねての対話  
式読み語りに子どもたちは大  
興奮！ 最後の蝶々の場面で「♪  
蝶々、蝶々、菜の葉に止まれ」  
と歌いながら絵本をひらひら  
動かして子どもたちの間を動  
きます。「今はあおむしみたい  
に小さいけれど、いっぱい食  
べて、いっぱい絵本を読んで  
に立派なおとなになろうね」と  
と締めくくりました。

**[浜島代志子の楽しいお話チャン  
ネル]**

[https://youtu.be/\\_ZekBymf4rw](https://youtu.be/_ZekBymf4rw)

# 教育視察へ台湾編▽（第一回）

麗澤大学教授  
モラロジードラマ教育財団

特任教授 大久保 俊輝



静心小学校 ロボット大会国内連覇

令和五年（二〇二三）六月、現地に赴くまでは中国との軋轢に至るところに緊張感が感じられるのではないかと予想していたが、着いてみると危機感よりも景気の上昇による活力と高層ビルの建設が進んでいた。それは日本の勢いを遥かに凌ぐものであった。元日本の新幹線が基幹となり山手線並みに走っていた。

早速、高雄の中山大学の知人の陳教授を訪ねた。海に面した地形に広大な敷地を有し、堂々たる国立大学としての存在感を示していた。中国からの留学生も多く、寮が提供されていた。表記は全て英語で、教授陣は企業経営者で、それも国際的なレベルのビジネスをされている方が多く、日本にも頻繁に来て日本人の友人が多くいる事には驚いた。コンビニは日本のブランドばかりで台湾とは思えないほどに日本企業が定着していた。学生の活躍も世界を視野にしていて、ステータスは対話を通して東大の学生よりも意識や

かに高く感じられた。すなわち元気なのである。ある意味、日本の学生は病んでいるようにも感じられたほどである。

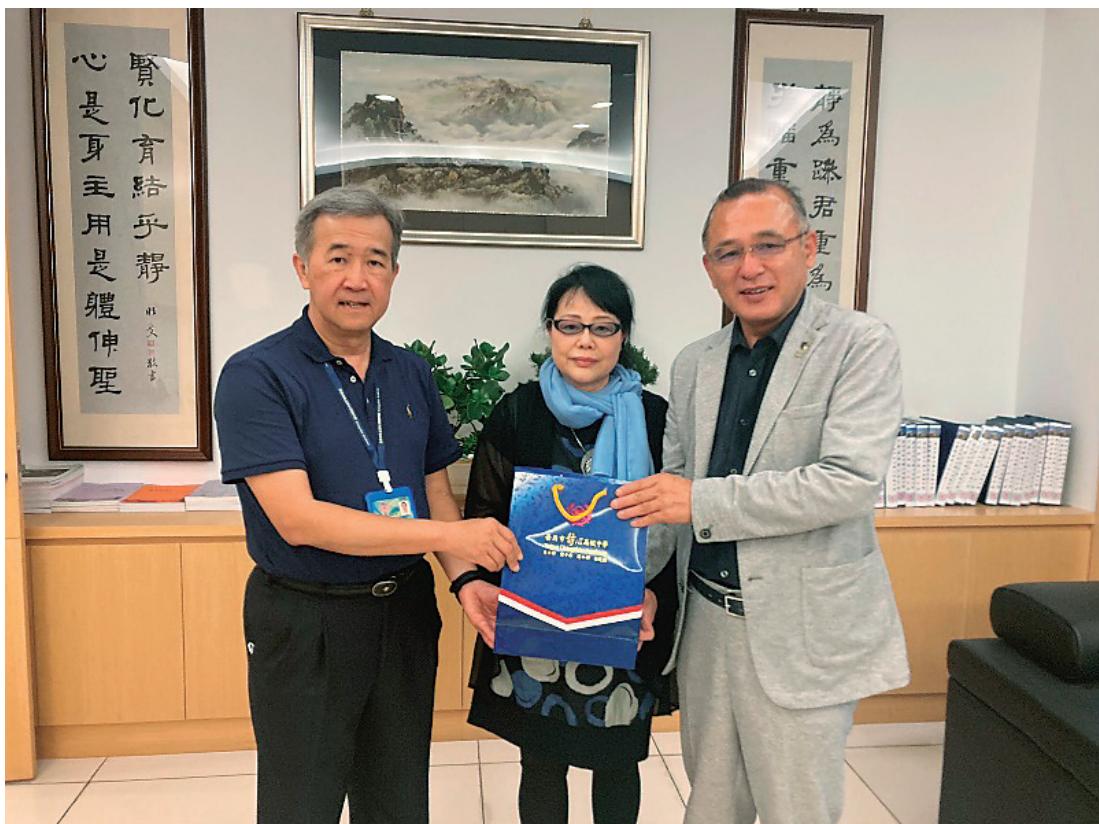
学術的な情報交換を、タピオカジュースを飲みながら木陰で済ませ、炎天下の中を数時間歩いて港から市場へとフエリで案内された。タクシーはほとんどが新車で乗用車も多く頻繁に来て日本人の友人にも頻繁に来て日本人の友人が多くいる事には驚いた。コンビニは日本のブランドばかりで台湾とは思えないほどに日本企業が定着していた。学生の活躍も世界を視野にしていて、ステータスは対話を通して東大の学生よりも意識や

フロンティアスピリットは遙かに高く感じられた。すなわち元気なのである。ある意味、日本の学生は病んでいるようにも感じられたほどである。

の教育関係者や著名人と懇談したが、その際に「何で日本には不登校があるのか?」「信じられない」「何でいじめに負けたのか?」「教育がおかしいのでしょうか?」「教育がおかしいのでしょうか?」と追求を受けた。返す言葉を失った。今の日本の姿は台湾の年配企業家からは論外である事が分かった。

そう考えるとドイツも台湾も不登校になると親が逮捕されると聽かされた事がある。翌日、小・中学生に「学校は楽しいの?」と聞くと、そうではないが親が捕まるので行つていると答えた。この時物乞いを二人ほど見かけたが、以前のようなく貧富の差があるとは思えなかつた。

その後、台北に戻り、数人家庭でやるべき事としている



台北市私立静心高級中学校唐尚智校長先生・原田倫妙博士と

正常なあり方を当然のようにされているのである。

次に、お目当ての私立静心小中高を訪問した。「保護者層は弁護士、医師、事業主と富裕層です」と、当然のように副校長が話された。この学校の創始者はあの蒋介石の次男の蔣緯国氏であり、その子孫や親戚などに加えて政治関係の関連もあるようではあるが、本校から国内外の最高学府へ九割が進学するらしい。

校長に案内されて授業風景や特別教室を見て回ったが、世界建築で何度もグランプリを獲得した事が分かる実用的でモダンな設計がされていた。特に課外活動には台湾大学教授や有名企業のOBが頻繁に講師としてリアルな学びを伝えていた。ロボティクスは小学校一年生から大学教授が英語で教えていた事には驚いた。公立の数十倍の学費を出して

英才教育を小中高四〇〇人が五階建ての建物に生活するが、不登校は病気の一人と話してくれた。カリキュラムは、本当に必要になるであろう学習と、

学びたいという意欲を引き出せる専門性や、やがて海外で活躍すると決めている生徒が多い事に感心した。勿論休み時間は日本の子どもたちと変わりはないが、社会も家庭も教師もそれぞれのやるべき意識をしっかりと持つていて、日本のように何でもかんでも学校へ押し付ける制度はなかった。よって職員の勤務は朝七時から夕方四時で残業はないのが当たり前になっている。

こうした秩序があるから活動力があるのだろうと教育の面でも強く感じられた。確かに中国との関係は緊張感がないわけではない。何故なら半年間の兵役は存在している。日本の教育が気づかねばならない

いのは、節度と秩序を整備して、

これは学校でやりますが、それは家庭ですべきですが、その社会も家庭も学校も意識

を再構成すべきである。学校の教師を臆病にしているのは誰なのか。臆病な教師では日本を再生し世界に貢献できる

ような人財は育たない。

台湾は日本の文化と伝統と魂に今も憧れを持っている。能書きはやめて感動、行動、躍動の「動徳」を始動させねば負の連鎖は止まらないとともに取り残されてしまう危機感を痛感する事となつた。台湾でも「動徳」に感銘を受ける教育者や企業人は極めて多く「大久保先生、日本を頼みますよ」と、何度も言われた事が今も耳に残つてゐる。

台湾国立中山大学30周年式典招待

## へ山下恵司さんの 生き様から学ぶ▽

### —台湾視察への導き—



創設の歴史  
蒋介石の次男蔣緯国  
(軍人)



台灣國立中山大學  
陳博士 原田博士と



台灣新幹線  
(東海道新幹線からは2020年に引退)



年を重ねても素直な心情を持つ人は魅力がある。その生き方を私は柏モラロジー事務所の故山下恵司さんに感じることが出来た。懐かしい長崎弁は実に耳触りがよく、人懐こくそして使命感に満ち溢れた「青年のような語気」が私はとても好きであった。それは私の両親もお隣佐賀の出身だからかもしれない。何としても本センターを訪ねて来られるときの満面の笑顔が忘れられない。「道徳」は「動徳」なり。学祖の格言から「自ら実行を期して初めて聖人を思つ」と動画の中でも力強く話されていた。つまり「動徳とは、行動力」、そして「道化とは、自覚力」、また「尊徳とは、品性化力」、更に「道義とは、品性

力」であると図式化している。行動に表す！ 言葉に表す！ 文字に表す！ その行動力に私は感服している。詳細は遺言となつた動画をじっくりと参照願いたい。



【対談動画  
（道徳を世界に広め、  
幸せの連鎖を!!）】



# 学校教育アドバイザーとしての心構え

モラロジー道徳教育財団

元公立小学校長(神奈川県) 長田 尚夫

長田 尚夫

学校教育アドバイザーの任命を受け、次の点を心に期して務めています。

## 一、道徳教育の重要性を自ら認識する

社会全体で、人としての生き方、心の有り方が問われています。他に責任を問うのではなく、自らに問い合わせる。

研究会や研修会の開催の後援を頂く際、主旨や理念を自らが理解し説明できる姿勢をもつて対応する。このことが信頼を得る源であり丁寧に継続的な対応が重要です。

『ニユーモラル』などの配付は、絆づくりの第一歩となります。

## 二、学校での道徳教育の支援になる

私たちの活動が、学校や先生方の支援になつていて、役立つているか。

「家族のきずなエッセイ」が、道徳の授業と結びついた取り組みとなり、先生方への支援となり、児童理解や評価に役立つ事業であります。

神奈川県協議会では、小田原事務所(小田原市・湯河原町)、伊勢原事務所(伊勢原市)でエッセイ集の発行事業が実施されていて、横浜事務所でも実施ありたい。そのためには、現場の声や校長先生方との情報交換をそれぞれに工夫され、地域の

大切にして行う。

## 三、地域の人に、モラロジー道徳教育財団の理念の啓発になる

私たちの活動が、理解され、受け入れられ、納得される。

教職員、児童生徒、保護者、家族への啓発活動が、地域の人への何よりも確実な啓発になります。

「家族のきずなエッセイ事業」

は、学校・保護者・児童・地域・モラロジー関係者を繋げる絆であります。

また、「道徳教育研究会」は、神奈川県では、座間会場と伊勢原会場で例年実施されています。それぞれの会場で、模擬授業(座間会場)や小中学校教員の実践発表(伊勢原会場)があり、地域で道徳教育を考える場となり、多くのヒントをいただける研究会となっています。



長田 尚夫 氏

# 教育者としての学び「子どもから学んだ教職一年目」



鎰廣修氏

さて、ここでは、教員となつて一年目に出会つた生徒のことを紹介しようと思います。私は、中学校二年生の学級担任となり、初めての学級経営を経験します。学年十三学級の中でも、落ち着き、互いを思いやる優しい生徒が多くいる学級でした。その学級に、

さて、ここでは、教員となつて一年目に出会つた生徒のことを紹介しようと思います。

私は、中学校二年生の学級担任となり、初めての学級経営を経験します。学年十三学

私は、昭和五十九年四月に、新規採用教員として滋賀県の公立中学校に着任しました。それから三十八年間、教職に身を置き、昨年、定年退職しました。今は栗東市の少年センターに勤務し、青少年の非行防止と健全育成に努めています。

多くの学校行事を進める中、十月にある出来事が起ります。実は、十月は私の誕生月です。誕生日当日、朝の短学活の終了直後に、学級委員の二人が前に出てきて、私に花束と誕生日プレゼントを渡してくれました。私は、感激し、うつすら喜びの涙を浮かべて、生

女子生徒Aさんがいました。彼女は一年生の時、担任の先生を慕い、学級のリーダーとして日々頑張っていたそうです。二年生に進級し、担任が新米の私に替わり、私には馴染むことがなく、私から話しかけても一言も言葉を返してくれることはありませんでした。家庭訪問で母親から「たぶん一年間、先生に話をしないと思いますよ」と聞き、この課題を解決する方法も見つからず、そのまま、私の学級担任が始まりました。

とすることの大切さを私に教えてくれたAさんに感謝しています。この経験は、私の自己反省と改善を導き、私を本当に成長させてくれました。

私の教職は、困難、つらさを抱えた状況から始まりましたが、生徒との向き合い方を学ぶ場でした。私は、先生方

徒たちにお礼の言葉を述べました。そのあと、改めて学級委員の生徒に、いろいろ準備や用意をしてくれて有り難いと伝えたところ、プレゼントの手配・準備をしたのはAさんだつたと教えてくれました。日頃は私を避け、口も利かない態度でしたが、私はAさんを外見だけで判断し、私の思い込みで彼女をとらえていたことに気づきました。彼女はその後も私に対する態度は変わりませんでしたが、生徒と向き合うこと、理解しよう

モラル・ゾーン道徳教育財団  
栗東市少年センター所長  
学校教育アドバイザー  
元公立中学校長(滋賀県)

鑑廣修

◆教師とは「知識、技能をさ  
ためにする人」  
づける人

に『徳永康起遺文集』に書かれた次の言葉をよく紹介しています。

給料のために教職に就く人が教員。教員免許をもち、専門職として教職に就く人が教師。自分の生き様を通して感化し、子どもへの可能性を拓く先生が教育者。と説明し、伝えていきます。今一度、「自分はどの段階、レベルで教育に携わっているのか」という視点で振り返つていただきたいと思います。何かが見えるはずです。他者の批判をする先生は多いですが、私の思いは、自己の反省から成長を試みる先生であつてほしいと願つてやみません。

# 田んぼでの体験活動で学校支援

モラロジー道徳教育財団

元公立中学校長(茨城県) 小谷野 守男



小谷野 守男 氏

三年前の五月、小学校の前の田んぼで作業をしていた私に声をかけてきたのは、四月に赴任してきた小学校の校長先生でした。児童と一緒に歩いて登校の様子をみていると、いう校長先生が、私をみつけて声をかけてくれたのです。「相談に乗って欲しいことがある活動の回復のために力を貸してほしいということでした。この年は、すでに田植えも済んでしまっていたこともあり、来年度からでよければ協力しましょう」ということで、学校の前にある $100\text{m} \times 56\text{m}$ の広さの田んぼを活用した体験活動が始まりました。

一年目は田植えだけの活動となりました。田植えといつても、機械で植えた田に入り、抜けている所を見つけて挿し苗をしていきます。一人分の

配されていた時期で、学校行事が中止になつたり控えめに開催されたりといった具合でした。そんな中で依頼を受けたのは、「五年生に田植えや稻刈りの体験をさせたいので、ご協力いただけませんか」という子どもたちの体験による活動の回復のために力を貸してほしいということでした。

この年は、すでに田植えも済んでしまっていたこともあり、来年度からでよければ協力しましょう」ということで、学校の前にある $100\text{m} \times 56\text{m}$ の広さの田んぼを活用した体験活動が始まりました。

一年目は田植えだけの活動となりました。田植えといつても、機械で植えた田に入り、抜けている所を見つけて挿します。一人分の

担当は五列。初めて入る児童がほとんどで、田に足を入れるや「キャーキャー！」と歓声が響き渡り、中々前に進めないでいる子どもたち。それでも先生方に促され、ゆっくり前進を始めると、「足が抜けません」「どこに植えたらいいんですか」等の声も聞こえる中、十五分ほどすると植えること集中する児童が増える一方、少し経験のある児童は小走りして遊び始める。泥の中は樂しいんだろう。晴天に恵まれた中での活動は、二時間を超えたところで終了となりました。

二年目は、稻刈りをした後に調理をして皆で食事もさせたいとの校長の思いを受けて、両方とも実施することができました。稻刈り当日は、晴天にも恵まれ児童はやる気満々。

三年目の今年も田んぼに歓声が響きわたりました。三人一組で交代しながら刈り取つた稻わらをコンバインに運び入れていきます。一時間ほど活動でホッパーがいっぱいになりました。

一週間後、白米を届けると、さらに一週間後におにぎり会食会の招待を受けました。塩おにぎりに漬物というシンプルなメニューなだけに、米の味が一層引き立ちます。「お米おいしい」の声があちらこちらから聞こえています。給食前だというのにおかわりをする児童もたくさん。この場にいることでこんなにもうれしい気持ちをいただくなんて本当に幸せな気持ちを味わわせていただきました。

三年目の今年も田んぼに歓声が響きわたりました。

# 「めざせリーダー！」

モラロジー道徳教育財団 学校教育センター長 川原 容一

学級訪問をした。

聞こえてきた担任と子どもたちの話に思わず足が止まつた。

「先生はよく”リーダーになれ、ボスになるな”って言うけれど、どういう意味？」

担任は、ちょっと間をおいて話し始めた。

「ボスって聞くと、何が思い浮かぶ？」

「コーヒー！」

「サル山」

「ギヤング」

「親分」

「ボスって一番偉くて、喧嘩が

強い感じ」

「威張つて力で言うことをきかせる感じ」

「では、リーダーは？」

「班長！」

「学級委員」

「キヤブテン」

「いろいろ命令するけれど助けてくれる感じ」

「教えてくれるとか、みんなに好かれる感じ」

「例えば、遠足で、体力がない子がいたとする。リーダーだったら、彼をどこに置く？」

「前だと思う人？」半数が挙手。

「後ろだと思う人？」半数が挙手。

「体力のない子にあわせてくれるのがリーダー」  
「ボスは置きざりにしちゃうかも？」ということは前かな？」「よくゲームの時、ぼろ負けのチームがあるよね。どんなときか思い出して？」  
「ひとりが泣き出したり、ふてくされたりしてゲームに加わらなかつたとき」  
「何でお前はできないんだとか、お前がいるから勝てないんだとか、バカとか言われてたよ」「そんなこと言う子をリーダーと呼んでいいかい？」

「子どもたちは一齊に頭を横に振つた。

「皆がリーダーになることは可能だよ。皆にリーダーを経験してほしいんだ」

手。

「体力のない子にあわせてくれるのがリーダー」

「もしかないね。でも、失敗しても先生は応援するよ」

この学級は、学級委員や班長を決めるとき立候補する子が多い訳がわかつたような気がした。

「リーダーになつて失敗するかもしないね。でも、失敗しても

先生は応援するよ」

以下のQRコードより申し込みください。

## メルマガ配信

川原学校教育センター長

が自ら記事を書き、毎月二回配信しています。何のためか、もちろん、先生方を応援したいからです。是非ご登録ください。配信希望の方は、



<http://bit.ly/sc-morality>

## 学校のちょっとといい話⑩



千葉県我孫子市立  
我孫子第二小学校  
元校長  
**鍵山 智子**

### 逆転の発想 —マイナスからプラスへ—

当時は、毎時間の授業のはじめに教科の忘れ物調べを行っていた。教室の誰かが忘れ物をするたびにマイナス点を記録するのが、教科担任の常であつた。私は、きちんと持ち物をそろえている生徒も一緒に、忘れた生徒への指導の時間を取りられるのが納得いかなかつた。そこで、持ち物がそろついたら、全員、加点していく方式に替えた。今では、「プラス思考」という言葉で、イメージできるが、私は、自ら「加点方式」と名づけて、様々

な場面でこの言葉を発するよう意識した。忘れ物をすると、点は増えずに現状維持なので、見方によつては、目には同じように映るが、加点方式に慣れてくると、生徒の会話の中に「○○係の活動、今日もプラスだね」とか、「その考え方、素敵だよね。先生、プラスしてあげて」などの言葉が教室内や学年の諸活動に徐々に広がつていった。

自己紹介をするときも、自分の短所はすぐに思い浮かぶのに、長所は中々言いにくい。

しかし、「落ち着かない性格」を、「好奇心旺盛な性格」と置き換えたり、「引っ込み思案」を「何事にも慎重な性格」と

年度初めに、生徒の体調を知るための保健調査票や家庭環境調査票を各家庭に配布し、提出をお願いしていた。ある時、取りまとめ期間から大分過ぎて、彼が調査票を提出してきた。その調査票は、とても整つた文字で書かれており、私は思わず「美しい文字で書かれていて素晴らしい」と彼に伝えた。すると、彼は提出が遅れたことを詫びながら、「先生、母さんの字だよ」ととても誇らしげに、可愛い丸い目

を輝かせて言った。「私もあなたのお母さんのような整った文字で書けるようになりたい」と彼に伝えた。明くる日、校生の時に簿記を習つていたので、きれいな文字が書けるようになった」と初めて聞いたと教えてくれた。そして、「ほくも、これから文字を丁寧に書くようにする」と語つた。それからの彼は、ノートの文字を丁寧に書くようになり、なぜか遅刻や休みも少なくなつていった。家庭訪問で、彼の母から、「先生に書類の文字をほめられて、息子の表情がほころぶのを見て、私自身が元気をもらつた」と話してくれた。その話を聞いた私の心もほっこりした。

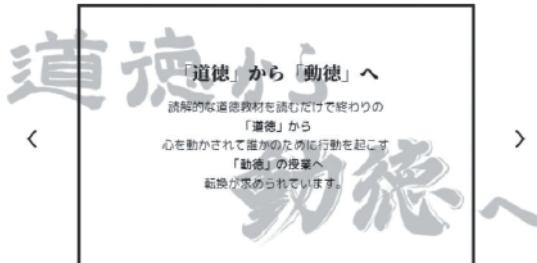
いくつになつても、様々な場面で、加点方式を取り入れ、出会つた人のいい所探しを続けていこう」と改めて感じた貴重な思い出である。

ある年、三校目の転勤で中学二年生のN君と出会つた。彼の母親は病弱で、入退院を繰り返し、退院後の看病などで、遅刻や休みも多く、本人の体調面や学習時間の確保においても、担任の私にとって、おいても、担任の私にとって、気がかりな生徒の一人でもあつた。

なたのお母さんのような整った文字で書けるようになりたい」と彼に伝えた。明くる日、校生の時に簿記を習つていたので、きれいな文字が書けるようになつた」と初めて聞いたと教えてくれた。そして、「ほくも、これから文字を丁寧に書くようにする」と語つた。それからの彼は、ノートの文字を丁寧に書くようになり、なぜか遅刻や休みも少なくなつていった。家庭訪問で、彼の母から、「先生に書類の文字をほめられて、息子の表情がほころぶのを見て、私自身が元気をもらつた」と話してくれた。その話を聞いた私の心もほっこりした。

いくつになつても、様々な場面で、加点方式を取り入れ、出会つた人のいい所探しを続けていこう」と改めて感じた貴重な思い出である。

# 学校教育センターの ホームページがリニューアル!!



学校教育センターの活動内容

学校教育センターでは、教育相談や講演会、出張授業、授業開発等教職員や保護者の皆様をサポートするための様々な活動を行っております。  
(詳細は下記のボタンをクリック)

[活動を見る](#)

## 《リニューアルポイント》

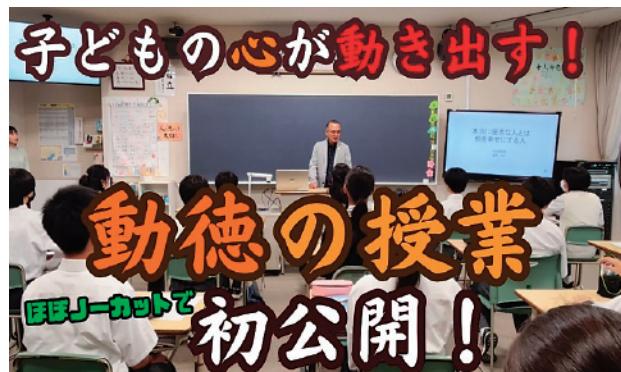
学校教育センターの活動内容が  
一目で丸わかり！  
講演会やイベントのお知らせ  
各種ご相談の受付もこちらから！

新しくなったサイトを  
早速チェック！→



You Tube 配信  
**「教育相談—ちょい聴き—」**  
学校の先生や保護者の方に向けて配信中！

大久保俊輝先生の授業動画を  
YouTube 初公開！  
in 麗澤中学校  
ほぼノーカットでお届けします！



幸いに私は荒れた学校ばかりの校長を引き受けってきた。勿論、荒れた学級で道徳の授業もした。いじめが蔓延していたからである。「やつて見せる」。この気概で児童生徒と対峙する動徳の姿でしか「本物の教師」は育成出来ない。今回の執筆者は全て実践者であり、「動徳の人」である。

医学と教育は似ている。医学部の教師は、困難な手術を学生の前でやつて見せる事が必須。座学では無理だからである。教育を伝える教師も、困難な授業や指導をやって見せなければ学生には伝わらない。しかしながら、私の知る教師はそのほとんどが講義のみで不甲斐ない。

編集長  
大久保  
俊輝



◆編集後記◆